

荻野の自然

会報 100 号記念誌



2013 年 1 月荻野自然観察会

100号記念号発行にあたって

荻野自然観察会 会長 花上 友彦

荻野自然観察会は、人と自然とのふれあいを楽しみ、自然を愛する人々で組織されたボランティアのサークルです。

会員から地元の荻野地域をはじめ、県内や国内のいろいろなところから自然観察や自然保護などに関連した情報が寄せられて編集されたものが会報「荻野の自然」です。

この会報が今回で100号になりました。振り返りますと創刊号は、今から16年前の1996年4月に発行されわずか4ページでした。

それから内容は年々密度の濃いものとなり、5年後の2001年10月には30号を数え、これを記念に30号までを合本にして刊行したのです。

以後、年平均6回の刊行が順調に進展し、今回の100号を迎えたのです。これも全会員が地道な活動に裏付けられた自然観察を継続させてきたからに他なりません。

会報は役員が順番に編集、印刷、製本につとめて出来上がるのです。

本号は記念号のため特別に編集委員会が組織され作成されました。

ここに編集担当された役員の皆様のご労苦に感謝申し上げたいと思います。

本号は紙面を拡大し、全会員の執筆の協力をいただきました。会報というよりは自然観察記録集ということが出来ます。

紙面に目を向ければ、本会が実施している観察会や、毎月実施している野草・野鳥・小動物の3部会の観察記、鷲尾山、荻野川や市谷

散策路の自然観察、野菜栽培やその特徴、身近な自然の移り変わりの報告、自然に関するエッセイ、環境問題等々、多様な情報をいただいております。

自然散歩を連載されていた諏訪氏の連載が絶筆となり残念です。

会報を読むことにより、荻野地域をはじめ、わが国の自然環境が現在どのようになっているのか、私たちは何をすべきなのかなどのヒントが得られると思います。

会報は会員は勿論、地域の皆さんにも喜ばれていて発行を楽しみに待っている方が多いと聞いています。

本記念号が読者の皆様のご期待に応えられることを祈念し、今後も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「継続は力なり」を忘れずに本号をバネとして、更に内容の充実した自然観察記としての会報にしていく所存です。

2013年1月



自然観察は新時代の趣味

自然は誰のものでもない（無主の動産）のだから、誰が採ってもかまわない、という考え方から、自然は誰のものでもないのだから、みんなで大切にしよう（国民の公共財）という考え方に切り替えるのが時代の要請であり、今や世界的な趨勢でもある。

そうした折に、採らない、脅かさない、殺さない、持ち帰らない、私物化しないで、あるがままの自然を総合的にとらえ、その仕組みを知り、なおかつ、観賞し楽しむといった新しい自然観察の展開は、まさに新時代の自然趣味といえる。

NHK 学園の自然観察入門では、自然観察の利点と特性を次のように6点あげている。

1. 高い充足感を伴う無形の価値をもつ。
2. 深い知的思考の場として格好で、汲めども尽きせぬ深みをたたえる。
3. 豊かな感性に訴え、また豊かな感性を研ぎ澄ますのに役立つ。
4. 極めて健康的で、全身運動を伴う優れたレクリエーションとなり得る。
5. 自然に対して繊細かつ緻密な対応をとおして保護的である。
6. 参加すること自体が、新時代の社交の場として老若男女を問わず、優れた人間関係を保証する。

自然観察は 身近なもの、普通のもの、ありふれたものから

身の回りの日常的な自然や自然物こそ、私たちの環境構成要素として重要な役割をはたしていることに着目してほしい。

従来の自然学習では、とかく、希少なもの、美しいもの、おなじものでも巨大または微小なものの学問上の特性などが重視されたが、これはともすると、珍しいものへ目を向け、反面日常ふんだんにあるものへの着眼がおろそかになり、その分だけその存在意義が軽視されがちであった。

本会では、自然観察にあたってそうした習慣を改め、従来、一般的であったために無視されがちであった『ありふれた、地元の自然の価値』を見出したいと思う。

《創刊号から》



「荻野の自然」No68号～No96号に掲載された小動物リスト

(平成20年5月～平成24年7月)

脊椎動物	哺乳類 両生類 爬虫類	ニホンザル ニホンイタチ ヤマアカガエル、ツチガエル、ウシガエル ミシシッピーアカミガメ、クサガメ、ニホントカゲ
節足動物	昆虫綱 チョウ類	(1) アオスジアゲハ、カラスアゲハ、キアゲハ、アゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハ (2) モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キチョウ、ツマキチョウ、モンキチョウ (3) ベニシジミ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ムラサキシジミ (4) アカタテハ、キタテハ、ツマグロヒヨウモン、アサギマダラ、ルリアタテハ、アカボシゴマダラ、テングチョウ、コムシジ、ヒメウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、コジャノメ、サトキマダラヒカゲ (5) イチモンジセセリ、チャバネセセリ、ミアマセセリ、ダイミョウセセリ
	ガ類	フクラスズメ、ホタルガ、カノコガ
	トンボ類	(1) シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ミヤマアカネ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、ナツアカネ、アキアカネ (2) コオニヤンマ (3) ミヤマカワトンボ、カワトンボ、ハグロトンボ
	カメムシ類	(1) アメンボ、オオアメンボ (2) ホシハラビロカメムシ、ヨコズナサシガメ (3) ツマグロオオヨコバイ (4) スケバハゴロモ、ベッコウハゴロモ、アオバハゴロモ (5) マルカメムシ
	甲虫類	(1) オオジロアシナガゾウムシ (2) オオヒラタシテムシ (3) アオオサムシ (4) クロボシツツハムシ、ヨモギハムシ、コガタルリハムシ (5) ゴマダラカミキリ、キボシカミキリ (6) ゲンジボタル (7) マメコガネ、ヒメコガネ、アオハナムグリ、コアオハナムグリ、クロハナムグリ、ドウガネブイブイ (8) ナナホシテントウ、ナミテントウ
	バッタ類	(1) クルマバッタ、クルマバッタモドキ、ヒナバッタ、ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ、トノサマバッタ (2) オンブバッタ (3) ヒシバッタ (4) コバネイナゴ、ハネナガイナゴ、ツチイナゴ、ヤマトフキバッタ
	キリギリス類	キリギリス、クサキリ、ツユムシ、セスジツユムシ
	カマキリ類	カマキリ、オオカマキリ、ハラビロカミキリ、コカマキリ
	アブ類	ハナアブ、シマハナアブ、ホソヒラタアブ、オオハナアブ
	ハチ類	(1) クロアナバチ (2) サトジガバチ (3) ベッコウバチ (4) セイヨウミツバチ
《昆虫以外的小動物》		
	クモ類	ナガコガネグモ
	オカダンゴムシ類	オカダンゴムシ
	ゲジ類	ゲジ
	甲殻類	
	カニ類	サワガジ
軟体動物		
	カニ類	マシジミ、タニシ

備考 (1) 小動物の範囲は、ニホンザルの大きさまでとする。

(2) 鳥類は、小動物であるが野鳥部会があるので除く。

「野生動植物保全フォーラム」に活動内容を報告

平成 24 年 12 月 9 日（日）に厚木市文化会館で「第 12 回野生動植物保全フォーラム」が開催されました。このフォーラムは荻野自然観察会がスタートさせ、全県下を対象として発展したものです。荻野自然観察会は『生物の多様性の観点』から活動内容をパネル掲示し、会員の美馬氏が説明されました。美馬氏は荻野の里山をよく観察されているので、参加者の質問にも的確に対応されました。そして、本会の活動状況を参加者に十分伝え、生物の多様性について、参加者に浸透させるものでした。また、海老名で「コウホネを守る会」の会長をされ、当会の会員でもある眞形氏も絶滅危惧種に近い植物を守る取り組みを説明され参加者から強い関心を得ました。



会報「荻野の自然」100号記念号の編集を終えて

平成 25 年 1 月

ここに記念号が発行されますことは、会員各位のご尽力によるものです。厚くお礼を申し上げます。「継続は力なり」と申しますが、荻野の自然を愛し、生物を心から好きである会員の日頃の活動がどの頁にも溢れ、編集にかかわった方々も異口同音に「素晴らしい内容であり、読み応えがある」と話しております。会員外の方もこの小冊子を手にとられてお読みいただく時、きっと多くの感動を味わっていただけるのではないかと思います。ご高覧の上ご批評ください。

「荻野の自然」100号（記念号）編集委員会

栗野豊實・鍛代節子・田口 實・田中美記子・花上尚江・松崎勝明・水越 武・山口鶴扇

事務局からのお知らせ

1. 2月17日（日）「野鳥観察会」 (注) 詳細は別途通知
2. 会報101号の原稿募集 会報101号は4月27日に発行の予定です。

荻野の自然 No.100号

2013.1.27 発行

発行人： 荻野自然観察会・花上友彦

事務局： 厚木市まつかげ台17-10 横山克己方 電話：046-242-0828